

環境調査結果のお知らせ

平成21年6月4日
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年6月4日午前11時から野見湾の環境調査をしました。
観測の結果は次のとおりでした。

概況

湾内の塩分・溶存酸素等については前週から特に大きな変化はありません。透明度が高い状態が続いていますが、有害プランクトンが湾内全域に出現しています。

溶存酸素

溶存酸素濃度は4.8~6.9mg/lでした。プランクトンが少なく日射も弱いため、測定値が前回の調査（5月29日、以下同じ）より若干低くなっています（表1・表2）。

水 温

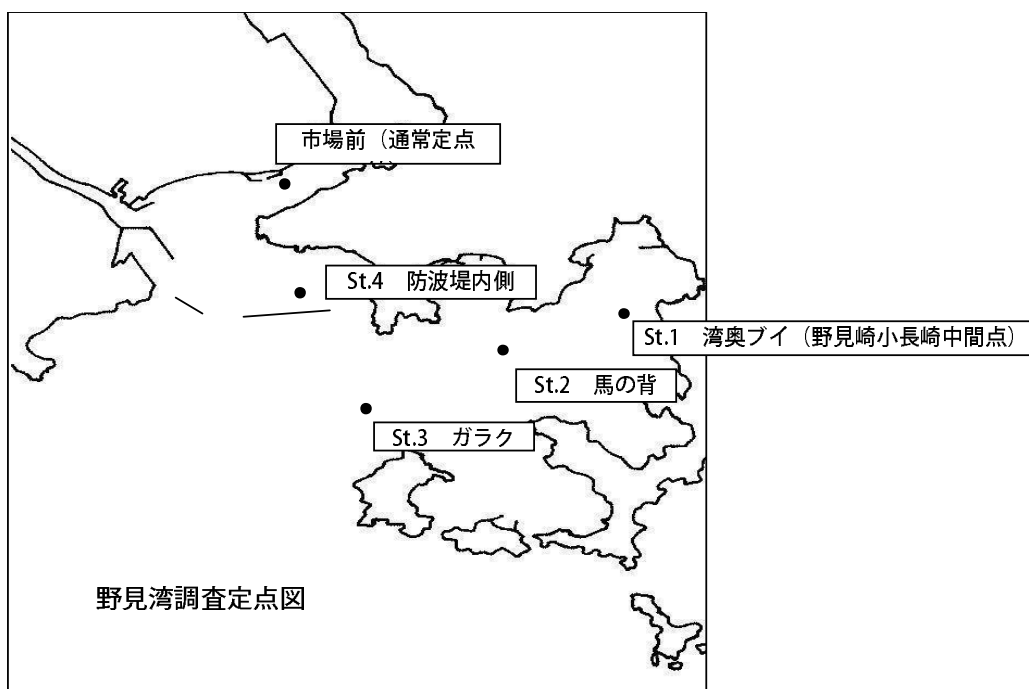
水温は湾内全域で22.4~22.9℃のほぼ同水温になっています。湾内の水温は前回調査から1週間で2℃前後高くなりました（表3）。

塩 分

湾内の塩分は33.44~34.33で、表層が若干低いですがほぼ均一になっています（表4）。

プランクトン

低密度ですが有害種が出現しています。プランクトン調査の結果は3ページ目に記載しています。



環境調査結果表（溶存酸素・水温・塩分）

表1 溶存酸素(mg/l)

平成21年6月4日

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.29)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	6.9	6.5	6.4	6.4	6.6	7.0	▲ 0.4	5.9
2 m	6.7	6.0	6.2	6.5	6.3	6.5	▲ 0.2	5.9
5 m	6.5	5.8	6.0	6.4	6.1	6.4	▲ 0.3	5.8
10m	6.1	5.7	5.9	6.2	5.9	6.4	▲ 0.5	5.6
B-1	4.8	5.5	5.9	5.9	5.4	6.2	▲ 0.8	5.5

表2 溶存酸素(ml/l)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.29)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	4.9	4.6	4.6	4.5	4.7	5.0	▲ 0.3	4.2
2 m	4.7	4.3	4.4	4.6	4.5	4.6	▲ 0.1	4.1
5 m	4.6	4.1	4.3	4.5	4.3	4.5	▲ 0.2	4.1
10m	4.3	4.0	4.2	4.4	4.2	4.5	▲ 0.4	4.0
B-1	3.4	3.9	4.2	4.2	3.8	4.4	▲ 0.6	3.9

表3 水温 (°C)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.29)		市場前
	野見崎小長 崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	22.7	22.8	22.7	22.4	22.7	20.9	1.8	22.3
2 m	22.8	22.8	22.7	22.4	22.8	20.9	1.9	22.5
5 m	22.8	22.8	22.7	22.8	22.8	20.8	2.0	22.6
10m	22.9	22.8	22.7	22.9	22.8	20.8	2.1	22.7
B-1	22.6	22.4	22.8	22.7	22.6	20.5	2.1	22.6

表4 塩分(ppt)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~ St3)	前回調査 (H21.5.29)		市場前
	野見崎と小 長崎中間点	馬の背	ガラク2番口	東側津浪防 波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	33.74	34.18	34.12	33.44	34.01	33.82	0.19	33.48
2 m	33.91	34.22	34.13	33.48	34.09	33.97	0.11	33.81
5 m	34.04	34.23	34.14	34.06	34.14	34.06	0.07	34.00
10m	34.20	34.24	34.17	34.24	34.20	34.09	0.11	34.19
B-1	34.26	34.33	34.25	34.29	34.28	34.15	0.13	34.20

表5 水深・透明度 (m)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	市場前
水深(m)	16.9	23.1	15.6	16.3	11.8
透明度(m)	8.0	8.5	10.0	10.5	4.5

環境調査結果表（プランクトン）

平成21年6月4日
単位 cells/ml

調査地点・水深		コクロディニウム・ ポリクリコイデス	フィブロカプサ・ ジャポニカ	ケラチウム・フルカ ケラチウム・フスス
St.1 湾奥ブイ	0 m	6	0	16
	2 m	16	1	12
	5 m	4	0	12
St.2 馬の背	0 m	0	1	1
	2 m	2	0	0
	5 m	0	0	1
St.3 ガラク	0 m	2	0	0
	2 m	0	0	1
	5 m	8	0	0
St.4 東側津浪防 波堤内側	0 m	3	3	2
	2 m	12	0	2
	5 m	0	0	0
定点外 市場前	0 m	0	0	12
	2 m	0	0	27
	5 m	0	0	8

プランクトン

コクロディニウム・ポリクリコイデスが湾内の全定点で出現しています。前回は出現が湾奥のみに限られていましたが、今回は湾内全域に広がっています。本種は、表層より2～5m層で増殖する傾向があり、発生状況が分かりにくいので注意が必要です。なお、本種は赤潮状態より低密度の400cells/ml以上で養殖魚に被害が出ることがあります。

フィブロカプサ・ジャポニカは沿岸で普通に観察される種類です。瀬戸内海などでまれに赤潮状態になり、漁業被害が発生することがあります。

その他の有害種では、ケラチウム属（2種類）が最高27cells/ml出現していますが、特に心配するような状態ではありません。

前回調査で多く見られたリゾソレニアやニッチア等の珪藻類は密度が薄くなりました。

今回出現した有害種にしても出現数は少なく、漁業被害が直ちに心配されるような状態ではありませんが、養殖魚の様子とプランクトンの動向には注意するようにしてください。なお、海面の泡立ちや着色、養殖魚の異常を感じたときなどは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所までご連絡ください。